

JIS

板紙—破裂強さ試験方法

JIS P 8131 : 2009

(JAPAN TAPPI/JSA)

平成 21 年 1 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 紙・パルプ技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	尾 鍋 史 彦	東京大学名誉教授
(委員)	石 田 満 男	富士ゼロックスエンジニアリング株式会社
	大 場 悟	全国クラフト紙袋工業組合
	大 盛 啓 一	日本紙パック株式会社
	岡 山 隆 之	東京農工大学
	川 岸 秀 治	日本大昭和板紙株式会社
	岸 恭 二	日本製紙株式会社
	熊 谷 健	熊谷理機工業株式会社
	佐 藤 達 也	東邦特殊パルプ株式会社
	豊 福 邦 隆	紙パルプ技術協会
	中 川 好 明	日本製紙連合会
	長 友 晃	中越パルプ工業株式会社
	生 原 道 夫	大日本印刷株式会社
	平 川 一 美	王子製紙株式会社
	水 谷 壽	株式会社東洋精機製作所
	若 松 操	レンゴー株式会社
(専門委員)	村 井 陸	財団法人日本規格協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 34.2.17 改正：平成 21.1.20

官 報 公 示：平成 21.1.20

原 案 作 成 者：紙パルプ技術協会

(〒104-8139 東京都中央区銀座 3-9-11 紙パルプ会館 TEL 03-3248-4841)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：紙・パルプ技術専門委員会 (委員長 尾鍋 史彦)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット環境生活標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 原理	2
5 装置	2
5.1 締付装置	2
5.2 ゴム隔膜	3
5.3 流体加圧装置	3
5.4 圧力測定装置	3
6 校正	3
7 サンプル並びに試験片の調製及び調湿	4
8 試験	4
9 試験結果の表し方	5
10 精度	5
11 報告	6
附属書 A (規定) 締付板 (ISO タイプ) の寸法	7
附属書 B (規定) 締付板の検査	9
附属書 C (規定) 締付圧	10
附属書 D (規定) 圧力測定装置の校正	11
附属書 JA (規定) 締付板 (JA タイプ) の寸法	12
附属書 JB (参考) JIS と対応する国際規格との対比表	13
解 説	15

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、紙パルプ技術協会 (JAPAN TAPPI) 及び財団法人日本規格協会 (JSA) から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。これによって、**JIS P 8131:1995** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権及び出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

板紙—破裂強さ試験方法

Board—Determination of bursting strength

序文

この規格は、2001年に第3版として発行されたISO 2759を基に、対応する部分については対応国際規格を翻訳し、技術的内容を変更することなく作成した日本工業規格であるが、対応国際規格には規定されていない規定項目を日本工業規格として追加している。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、国際規格を変更している事項である。変更の一覧表に説明を付けて**附属書 JB**に示す。

1 適用範囲

この規格は、流体を用いて板紙に圧力を加えることによって、板紙が破裂するときの強さを測定する方法について規定する。

この規格は、破裂強さが350 kPa～5 500 kPaのすべての板紙（段ボール及びソリッドファイバボードを含む。）に適用する。また、この規格は、段ボールのような破裂強さの強いものに使用される紙及び板紙のうち、250 kPa以上350 kPa未満の紙及び板紙に適用してもよい。ただし、この場合の測定値は、必ずしもこの試験方法で定めた精度内にあるとは限らない。したがって、測定結果は、この規格の適用範囲外（破裂強さが350 kPa未満）であることを、報告書で述べる必要がある。

測定方法について特別な契約などの商業的取決めがない場合、破裂強さが350 kPa～1 400 kPaの範囲の板紙で、ソリッドファイバボード原紙及び段ボール原紙を除く600 kPa未満の板紙は、**JIS P 8112**によって測定し、それ以外の板紙は、この規格によって測定することが望ましい。

注記 1 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 2759:2001, Board—Determination of bursting strength (MOD)

なお、対応の程度を表す記号(MOD)は、**ISO/IEC Guide 21**に基づき、修正していることを示す。

注記 2 附属書 JAは、2014年3月31日をもって廃止し、同時に引用規格**JIS B 0601**も削除する。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 0601:1982 表面粗さ—定義及び表示

JIS P 8110 紙及び板紙—平均品質を測定するためのサンプリング方法

注記 対応国際規格：**ISO 186**, Paper and board—Sampling to determine average quality(IDT)